

平成 30 年 9 月 18 日現在

機関番号：25403

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12294

研究課題名(和文) 玉座とその象徴性の基礎研究

研究課題名(英文) Fundamental Study about Throne and it's Symbolism

研究代表者

服部 等作 (Hattori, Tosaku)

広島市立大学・芸術学部・名誉教授

研究者番号：50218509

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 成果の概容は、玉座の象徴性が座姿勢と玉座の形態に由来する二点を検証した。まず象徴性を備えた玉座の淵源は、紀元前六世紀の古代アナトリアの座像に現れ、後の前三千年紀のシュメールとエジプト文明の玉座座像に引き継がれている。次に玉座は、人々の天(宇宙)に君臨する神を敬い畏怖する「敬天」指向で制作され、象形や甲骨文字の語形と語義から証明できた。

特徴的な玉座は、東洋的および西洋的な象徴性を備えた二例をとりあげることができた。まず日本の天皇の即位礼における高御座(玉座)と大嘗祭の天皇の威儀を正した姿勢、および王室・戴冠式の玉座としてイラン・アケメネス朝ダリウス王の玉座の例を示した。

研究成果の概要(英文)： This study focus on symbolism of the throne to showing two evidences, The first symbolism is shape of the throne. The second is formal sitting postures of the host/hostess or uninhabited on its. The early image of the symbolism appeared in the figures mother goddess at Anatolia in the sixth Millennium B.C. The common images appeared in the arts in Sumer and Egyptian figures in the 3rd Millennium B.C. These symbolism kept in letters in the above civilizations and the inscriptions of Shang dynasty period of China.

This study depict from Eastern and Western throne styles as examples. The first example is the throne so call Takamikura as the emperor of Japan made use of a enthronement ceremony so called Daijyo-sai, The second example is appeared in the Darius I, a king of the Achaemenid empire, Iran. These two examples have typical aspects of the symbolisms of the throne.

研究分野：王朝家具

キーワード：玉座 座法 王権 椅子 起居 胡床 デザイン 身体性

1. 研究開始当初の背景

入澤達吉は、1920年に記録した「日本人の坐り方について」日本の畳の上に胡座(あくら)や正座、箕踞(なげあし)といった伝統的な平坐(床座)の立ち居ふるまいの姿勢や礼儀・作法の所作にある起居文化をとりあげた。しかし現代の生活様式は、椅子に腰掛ける、ソファに横臥するという生活様式の著しい変容により端正な姿勢、威儀といった起居の文化の伝統的内容の衰退がすすんでいる。加えて今日の工業製品は、「軽・薄・短・小」化を優先する経済性、生産性重視の一方で、「豪華につくられた椅子が王の玉座である」とみなす物質文明観の偏見も強く固定化している。すなわち伝統的な起居の文化 - 正座姿勢や威儀をただした姿勢、および正倉院の御椅子が木材や漆を駆使した伝統の調度品がもつ日本や東洋的な物質文化観に目が向けられなくなっている状況がある。

こうした起居の伝統、物質文明観の変化を背景に、美しい所作や厳格な姿勢と起居の文化を改めて考える必要がある。とくに起居の文化とその伝統から天皇の“平敷きの坐”を含めた平座、そして宮廷の座具のなかで即位礼に用いる高御座や戴冠式における玉座と座法に注目したい。玉座での座法(姿勢)は、皇帝、王といった特別な階級の頂点にある(神と例えられる)人物が公式の場での姿勢である。玉座の呼称は、王座、神座、法座、さらに天子の席とも称し、単なる座席を越えた空間としての呼称も多く、玉座が起居の文化で大きな役目を果たしてきた歴史をもつ。

玉座は、権力者(指導者)の日常的な平和安定の席である反面、権力闘争の舞台として戦争の戦利品になる象徴的な席である。また日常的にイスラム教 - キリスト教 - ユダヤ教、イスラム - 仏教など最高聖職者であると同時に宗教上の対立をも象徴する。こうした起居の文化とともに特別な権力の席の伝統理解するうえで特別に象徴的な席、それが主人

公なき席であっても起居との特別な象徴性をもつ席となる「玉座」について研究の必要性がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、権力の座をめぐる特別に象徴的な“玉座”を、身体的な座法(姿勢)と形態的な要素から玉座の象徴性の解明を目指すことにある。

玉座という特別な主座に採用された座姿勢が象徴する身体表現の内容、ならびに物質文明観のもとで呪物(物神)崇拜、儀礼、歴史的内容とともにその形態から、玉座の象徴性の解明をすすめる事が本研究の目的である。

3. 研究の方法

玉座の象徴性を姿勢的要素と形態的要素の二面から研究をすすめる。

姿勢的要素による方法は、平座姿勢および倚座姿勢の二つから象徴性を解明する。平座座法の一つがイスラム、ヒンズー、仏教の礼拝姿勢で見だせる床や敷物の上で膝を折る平座の座法(席地而坐)である。もう一つの座法が玉座に身を寄せる倚座の座法(垂足而坐)で主に西洋の玉座に代表される。

東洋、西洋の両姿勢に共通する内容は、現人神として威儀を正し身構える象徴的な主人公の姿勢、空席でも象徴性を伴う点である。

また玉座の形態的要素は、姿勢的要素にもとづくその形態に物質文明観が象徴性に大きく影響を及ぼす点である。歴史的に玉座は、金銀宝石を多用する豪華なつくり(物質文明観)とする一般的な偏向が強いが、石や木材といった入手しやすく、安価で加工が容易な材料による玉座も多数存在する。

本研究の方法は、以上の姿勢的要素と形態的要素を画像資料と象形文字で明示する。

中国の象形(甲骨)文字の語形と語義は、起居に関連づけ文字や家具に多く見出せる、それらの点と玉座の座像をもつ画像を照合する

ことから玉座の象徴性について基層の内容を調査する。

4. 研究成果

研究期間中の成果として平成 27 年度は、起居(立ち居ふるまい)の文化のなかで皇室の御椅子と英国王の玉座の喪失 - 継承の資料調査をすすめて発表をした。

その結果、平成 28 年度の研究成果は、玉座に採用された座法(姿勢)について東西世界を代表する二つの起居の様式をなす平座 - 膝を折り拘束性をもつイスラムや仏教の礼拝姿勢である床や敷物の上の座法、および倚座 - キリスト教法皇の玉座で足を垂らして身を寄せ高所から見下す二系統の座法を玉座の図像、考古資料から具体例の明示できた。

平成 29 年度の研究成果は、姿勢上の要素から、その象徴性の検討をすすめた。すなわち、古代象形文字 “坐” の語形と語義が、神を憑代にみだて低姿勢で神の審判をあおぐ姿勢に由来するとする内容について、歴史的な美術表現(壁画、彫刻、印章)を対比しその象徴性の基層にある天を敬い畏怖の思う「敬天」の指向とする内容を確認し、特別な権力の玉座から比較可能な歴史的な例、前述した皇室の御椅子と英国王の玉座、ならびにオリエント世界とアジア世界の王朝家具(エジプト、ペルシャ、インド、中国)を図像的に解題することで玉座の特徴が明示できた。

5. 主な発表論文等(研究代表者は下線)

【雑誌論文】(計 1 件)

服部等作(2014):『遊牧民族の座法が五涼の仏座像に及ぼした影響に関する研究(1)』広島市立大学・芸術学研究紀要 20 号:pp.2-9

【学会発表】(計 3 件)

服部等作(2018 年 9 月 1 日(予定)):『大嘗祭と高御座 - 分身の神話学』筑波大学比較宗教・比較神話研究会、筑波大学茗荷谷校

服部等作(2016 年 8 月 1 日):『ディオニュソ

スの系譜 - 芸能とエクスタシーの神々』筑波大学比較宗教・比較神話研究会、筑波大学茗荷谷校

服部等作(2014 年 8/29 - 30):『チベット・ラムドにおけるル口祭の信仰』、文明の発生の神話・農耕、金属、繊維、繊維文化と文明の祭り、比較神話学シンポジウム、GRMC 比較神話学研究組織、比較神話研究会、pp.193-197, 中央大学多摩キャンパス

【図書】(計 7 件)

服部等作(2018):『北西インドからヒマラヤを越えた青銅仏』、pp.167-199、アジア仏教美術論集・チベット II、宮治昭・肥田路美・板倉聖哲(監修)、中央公論美術出版、

服部等作(2014):『ダレイオス王の玉座とその象徴性』篠田知和基(編)、神話・象徴・儀礼、pp.5-14/546、GRMC 研究機構委員会、楽瑯書院、2014.3.5、

服部等作(2015):『古墳時代の椅子と人物の座法』篠田知和基(編)吉田敦彦他、神話・象徴・儀礼 II - 依田千代子教授追悼論文集 pp.171-180/全 464、GRMC 研究機構委員会、楽瑯書院、

服部等作(2014):『立像と横臥像からなる饗宴と化粧皿の図像-異界と常世』、pp.513-527/580、篠田知和基、井本英一(編)、服部等作、他、楽瑯書院、

服部等作(2014):『立像と横臥像からなる饗宴と化粧皿の図像-異界と常世』、pp.513-527、篠田知和基、井本英一(編)、楽瑯書院、

服部等作(2013):『前 3 千年紀の印章に現れる土器づくりと神へ誓願する表現』、神話・象徴・図像 III、pp.287-296/704、篠田知和基(編) GRMC 研究機構委員会、楽瑯書院、2013、12、25

服部等作(2019 予定):『玉座スタイル - あぐらとこしかけの座像』、鹿島出版会、2019

【産業財産権】

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

服部等作：学位博士論文『玉座の「カタ」と「カタチ」．メソポタミアの紀元前3千年紀における玉座の研究．“Kata” and “Katachi” of the Throne - Study of the Throne in the 3rd Millennium B.C. in the Mesopotamia』報告番号：乙2297号；博士（人間科学）学位論文、審査/報告-早稲田大学リポジトリ

<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/36536>

本文：
<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/.../Gaiyo-5544.pdf>

服部等作、吉田幸弘、大塚智嗣：
「デザイン学生起業家と市大ブランドの創出をめざしたデザインの研究」報告

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros-hima-cu/metadata/11467>

服部等作：胡牀の形態とその座法について」

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros-hima-cu/metadata/11471>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部等作(Hattori Tosaku)

(広島市立大学・芸術学部・名誉教授)

(研究者番号：50218509)

研究分担者：-

(2) 研究協力者

サヘイ.B.K. (Sahay B.K.・インド・国立ニューデリー博物館・学芸副部長)

ニドオラ・サエライ(Nidauiha Sehrai・パキスタン・ペシャワール大学博物館・教授)

ジョンカーティス(Jhone Curtis・英国・大英博物館・西アジア部・元部長)

ジョークリブ(Joe Cribb・英国・大英博物館・貨幣メダル部・元部長)

ジェームスプットナム(James Putnam・英国・大英博物館・エジプト部・元学芸員)

ジョンクラーク(Jhon Clarke・英国・ビクトリア・アルバート美術館・インド部・学芸員)

〔その他の研究協力者〕

野呂影勇(Noro Kageyu・早稲田大学・人間科学部・名誉教授)

蔵持不三也(Kuramochi Fumiya・早稲田大学・人間科学部・名誉教授)

関根真隆(Sekine Masataka・宮内庁・正倉院事務所・元所長)

篠田知和基(Shinoda Chiwaki・広島市立大学・国際学部・元教授)

森安孝夫(Moriyasu Takao・大阪大学・文学研究科・名誉教授)

菅澤茂(Sugasawa Sigeru・工学院大学・建築工学研究科・研究員)